

## [救急科]

### [研修の目的]

通常の臨床業務としては救急初期診察を行っている。救急車の初期対応が主体で、AHA(アメリカ心臓協会)のガイドラインに従った BLS(一次救命措置)と ACLS(二次救命措置)、JPTEC(病院前外傷救護標準化プログラム)と JATEC(外傷初期診察ガイドライン)に沿った外傷初期診察に取り組んでいる。内因性疾患については JMECC(日本内科学会認定内科救急)講習会に基づく対応を行っている。地域メディカルコントロール体制に参画し、ONおよび OFF Line のメディカルコントロールを行っている。更に災害対策医療に取り組んでおり、DMAT(災害派遣医療チーム)も設置された。救急科研修では、これらの日常診療経験およびシミュレーション医療訓練により救急医療の基本を学ぶ。

### [研修指導者]

加藤俊哉(救命救急センター長 兼 救急科部長)

日本救急医学会専門医、JPTEC インストラクター、日本救急医学会認定 ICLS コースディレクター・インストラクター、日本内科学会認定内科救急・ICLS 講習会 (JMECC) ディレクター・インストラクター、日本統括 DMAT 隊員、浜松医科大学臨床教授、日本呼吸器学会指導医、インфекションコントロールドクター、日本内科学会認定医、臨床研修指導医

水谷敦史(救急科医長)

日本脳神経外科学会認定 脳神経外科専門医・指導医、日本脳卒中学会認定 脳卒中専門医、日本救急医学会認定救急科専門医、日本 DMAT 隊員、日本救急医学会認定 ICLS コースディレクター・インストラクター、ISLS(神経救急蘇生)認定コースコーディネーター・ファシリテーター、PNLS(脳神経外科救急)インストラクター、JATEC インストラクター、JPTEC インストラクター、日本静脈経腸栄養学会 TNT 受講 (NST 医師)、臨床研修指導医、日本スポーツ協会公認スポーツドクター

### [研修コース]

スーパーローテートコースの1つ

### [研修指導体制]

上記業務に取り組む中で救急初期診察を学ぶ。具体的な項目は研修到達目標(別表)に示す。科の特性上、臨床業務も研修も専門診療科との連携が必要であり、研修医も適宜他科指導医の指導を受けることになる。

### [研修内容および到達目標]

救急科研修到達目標 (◎:到達目標 ○:指導のもとに行うことができる。助手として行う)

評価項目		到達目標
I. 救急疾患の重症度の鑑別(症候別の重篤な病態の鑑別)		
(1)ショック	出血性ショック、心原性ショックなど	◎
(2)意識障害	脳血管障害、頭部外傷、急性中毒、代謝性疾患など	◎
(3)呼吸困難	気道障害、肺障害、心不全、中枢性疾患など	◎
(4)不整脈	心室性頻拍、心房細動など	◎
(5)胸痛	心疾患、肺疾患など	◎
(6)腹痛・急性腹症		◎
II. 救急検査手技(最低限必要な検査の手技と評価)		
(1)動脈血液ガス分析(手技、評価)		◎
(2)電解質測定(評価)		◎
(3)心電図(手技評価)		◎
(4)画像診断(評価)	エコー、単純X線像、CTなど	◎
III. 救急処置(心肺蘇生法を中心とし、緊急に必要な処置の手技)		
(1)心肺(脳)蘇生法		
気道確保	異物分泌物除去、エアウェイの挿入	◎
	気管挿管	○
人工呼吸	バッグマスク法による人工呼吸	◎
胸骨圧迫		◎
直流除細動		◎
蘇生に必要な緊急医薬品の使用法	カテコラミン(エピネフリンなど)、リドカイン、アトロピン、重炭酸ナトリウムなど	◎
(2)患者管理のための処置		
静脈路の確保		◎
動脈血採血		◎
中心静脈カテーテルの挿入、中心静脈圧測定		◎
(3)治療的処置		
胃チューブ挿入		◎
胃洗浄		◎
導尿、Foley カテーテル挿入		◎
腹腔穿刺		○
心嚢穿刺		○
腰椎穿刺		○
胸腔ドレナージ		○
止血・小切開・排膿・縫合		◎

Sengstaken-Blakemore チューブの挿入	○
IV. 重症患者管理(主な vital organ の不全患者の評価と治療手段)	
(1)環境管理	
循環動態のモニタリングと血行動態	◎
ショック患者の循環管理	◎
循環管理に必要な薬剤	◎
不整脈の管理	○
(2)呼吸管理	
血液ガスの評価	◎
酸素療法	◎
人工呼吸の管理(レスピレーターの基本的設定ができる)	◎
(3)体液管理	
体液電解質異常の評価と補正	◎
酸塩基平衡異常の評価と補正	◎
輸液・輸血管理	◎
(4)血液凝固・線溶系の管理	
血液凝固異常の鑑別と評価	◎
V. 外傷患者の診断と治療	
外傷患者の取り扱い	◎
外傷重傷度の判定	◎
多発外傷患者の治療の優先順位の決定	◎
VI. 救急総合診療	
広範な救急疾患の初期診療を行う	◎
社会的問題点を含めての総合的判断を行う	◎

◎：到達目標      ○：指導のもとに行うことができる、あるいは助手として行う